



末吉小だより

横浜市立末吉小学校

学校だより

令和4年 10月号

しっかりと節目を刻む

副校長 菅野 範子

「フレー フレー す・え・よ・し!!」

来たる10月15日(土)の末吉カップ(運動会)に向けて、練習にもだんだんと気合が入ってきています。体育館での応援団の練習の声職員室までも届き、校庭での各学年の演技の練習、リレーの練習についつい目が奪われてしまいます。コロナ禍での運動会は3年目となり、今年も参観できる人数の制限や感染防止策を講じていきたいと考えています。そのため、ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、身体をいっばいに動かしていきいきと走ったり跳ったりする姿を楽しみにしつつ、一生懸命日々の練習に励む子どもたちにあたかなエールを送っていただけますと嬉しいです。

さて、10月7日(金)で前期が終了し、三連休を挟んだ後、11日(火)から後期が始まります。まもなく現学年の折り返し地点です。子どもたちには「あゆみ」をお渡ししますが、前期のがんばりと後期への励ましが記された「あゆみ」を手に、きっと新たな思いをもって後期からもがんばっていくことと思います。そのような「節目」のときを迎える末吉っ子たち。

節目のとき・・・よく「人生の節目」「節目の年」などと言われますが、なぜそのような大事な時に「節目」が使われるのか、いろいろと調べてみました。

「節目」は「区切り」という意味合いで使われます。また、木材や竹など「節」はついていますが、生きていくうえで大事な区切りの時という意味で使われる場合は、竹の幹についている節目のことを表すことが多いようです。竹の幹は割ってみたら分かるように空洞になっています。その幹と幹をつなぐ節があることで、強い風に揺られても、大雪が降り積もっても幹をしっかりと支えることができるのです。また、節をつくるとそこからさらに幹が伸びていき、また次の節をつくって伸び、節をつくって伸び・・・を繰り返して、竹はまっすぐに高く伸びてしっかりと成長していくことができます。

すべての子どもたちが前期終了、という節目を刻むときです。子どもたちは自分自身の前期のふり返りや手にした「あゆみ」、保護者の皆様の励ましの言葉かけ等でどのような節目を刻めたのかが分かることと思います。ぜひこの「節目」をしっかりと意識して、そこから次の節目まで伸びていき、さらにその先も節目を刻んでいくなから高く長くまっすぐに成長してほしいと願っています。そして、子どもたち一人ひとりがしっかりとたくましい幹をつくってほしいと願いながら、後期も教職員一同で支え励ましていきます!!



花壇の片隅に咲いていたオオケタテの仲間。
この花の茎にもしっかりと節がありました。